

【実施報告】2025 年 12 月 22 日

港区立小中一貫校お台場学園 6 年生 × FEILER

「ブルーシー プロジェクト」事後学習

東京湾・お台場の「海」を知ろう！

コーディネート：伊東久枝（海的环境教育 NPO bridge）

スタッフ：人見道夫（ネイチャーガイド 風の道）・茂木みかほ（フリーランス）



▲お台場学園6年生×FEILER『ブルーシー プロジェクト』で制作されたハンカチ。児童が描いた絵がデザインのベースになっている。

概要

東京湾の湾奥、お台場の人工海浜に面して立つ『お台場学園』。公立の学校としては珍しい小中一貫教育を行っている学校で、その立地を生かして、低学年から地引網や海苔づくり体験、アマモの育成など、多くの海洋学習を行っています。

2025 年、株式会社フェイラー・ジャパンが社会貢献事業の一環として、6 年生を対象にハンカチづくりを通して、製造・販売のノウハウや「思いの発信方法」を学ぶ『ブルーシー プロジェクト～海的环境を守る大切さを発信する』を行いました。こうして出来上がったハンカチの売上金の寄付先に海的环境教育 NPO bridge を選定いただき、その寄付金を使って、海洋学習教材 LAB to CLASS『干潟のジグソーパズル』追加資料の作成と、参加した児童を対象とした特別授業『東京湾・お台場の「海」を知ろう！』を実施しました。

授業では、都市部の海での人工海浜の意義、そして東京湾の自然本来のポテンシャルと悪化する海洋環境に自分たちができることなど、『干潟のジグソーパズル』他いくつかの教材を使って、楽しみながら海のことを「自分ごと化」できるような工夫を行いました。

- ◆ テーマ：自分のいる場所「お台場海浜公園の海」を理解する
- ◆ 学習目標：
 - 1) “森と海のつながり”のなかの「ここ（自分）」に気づく
 - 2) 埋め立て前の自然「干潟の海」を知る～再生の目指すところを意識する
 - 3) プラごみ等の海洋環境問題を自分の生活とつなげて考えられるようになる
- ◆ 体験者：小学6年生 67名
- ◆ 実施場所：お台場学園 体育館
- ◆ 実施時間：2025年12月22日（月） 10：35～12：00
- ◆ 使用教材：海洋学習教材 LAB to CLASS <https://lab2c.net>
 - 《海の生きもの 椅子取りゲーム》海の生きものカード
 - 《干潟のジグソーパズル》
- ◆ 協賛：フェイラージャパン株式会社
 - *授業の様子はこちらにも▶ https://www.feiler-jp.com/feiler_magazine/detail/536

◎活動の様子

【アイスブレイク】



■身近な「海の生きもの」の暮らし

校舎の前に広がる海、生徒たちが採取・飼育している水槽が並ぶ玄関ホール。

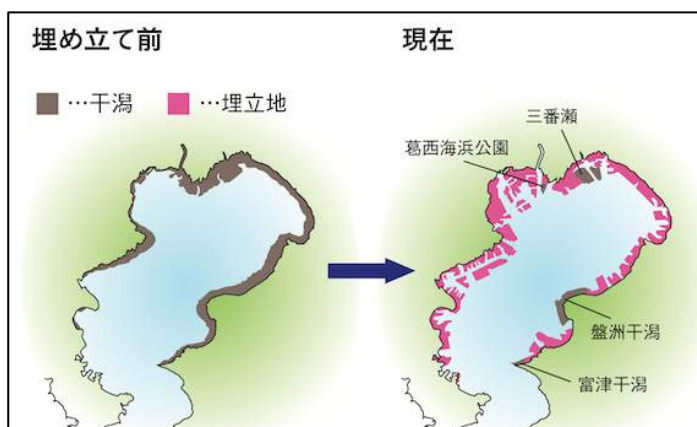
「ハンカチの原案を描く授業で、海を青色で塗らず、ほとんどの子どもたちがグラデーションに塗ったのが印象的でした」（フェイラージャパン担当者）

大都会に隣接する場所であっても、生活の隣に「海」がある生徒たちにとって、海は日常の風景として刻まれているようです。

しかし、そこにいる生物と自分の関係、森と海のつながりのなかでの「目の前の海」の位置、その意識はまだ薄いのでは…。そんな先生のご意見を受けて、最初は、身近な魚介類などを生物として理解してもらうために、LAB to CLASS 教材《海の生きもの 椅子取りゲーム》で、よく知っている海の生物が「海のどこで、どんな暮らし」をしているのか、目の前の「東京湾に暮らす生きものは何か」の意識づけを、アイスブレイクアクティビティとして行いました。



【東京湾の豊かさ・ポテンシャルを知る！】



■干潟の自然と陸との関係

江戸時代、江戸城の前で最初の埋め立てが始まる以前、東京湾沿岸にぐると広がっていた干潟。品川沖にあたるお台場周辺も、エビ漁や海苔の養殖が盛んな遠浅の海でした。その本来の「干潟の自然」がどのようなものなのか、森や町とどのようにつながっているのかを、大判のジグソーパズルを作成することで可視化。「水の流れ」やそれに乗って陸域からやってくる栄養塩や、プラスチックごみのことも、子どもたちと一緒に考えながらパズルの上に写真などを置いて話し合いました。そして、パズルの海と現在のお台場の海の相違点も出しました。

■目指す「未来の海」は？

「江戸の前の海＝東京湾」でとれた魚でつくられていたことから名付けられた『江戸前鮎』。その海の豊かさと現在の漁獲状況をお寿司の写真を使って紹介。この豊かさも、「生命のゆりかご」と言われる干潟があったからだということを伝えました。

そして、お台場小学校で行っているアマモの育成や海苔の養殖体験、ビーチクリーンナップなどは、港湾部に東京湾本来の自然を再生しようとしている「未来の海づくり」の試みであることを確認しました。

3 ↑ 江戸前鮎は、江戸城の前の海＝東京湾でとれた魚でつくられたから。今の東京湾で獲れるネタはどれだろう？

【海を守るためにできること】



■「理想の海」を考える

江戸時代の干潟が広がる豊かな海と、自分たちが暮らしている現在の都市の利便性。それらを考えて、自分たちがこれから創りたい「未来の海」はどのような海なのか、そのために自分ができることは何なのか？ グループで考え、意見交換を行いました。

そして、海的环境教育 NPO bridge のメンバーそれぞれが持つ「未来の海」への思い、そのためにやっていることなども少し紹介をして、特別授業を終えました。



東京湾の先、伊豆諸島御蔵島に暮らすミナミハンドウイルカの実物大模型の紹介。イルカの海と目の前の海がつながっていることも、少しイメージできたら嬉しいです。



それぞれが考えた「未来の海づくり」のためにやりたいアクション宣言を持って、制作した「干潟のジグソーパズル」の前で記念撮影。

◎実施後の感想（海の世界教育 NPO bridge 伊東）

小学校の低学年から目の前の海で体験活動を行い、海洋学習に力を入れている学校のため、海に対する知識は広く、特にプラスチックごみなどの環境問題に対する認識が高いと感じられました。しかし認識が高く、ビーチクリーンアップなどの行動も行っているだけに、海浜公園でも生物が減少している現状や、観光客によるゴミのポイ捨て問題など、現状課題に無力感や義務感を持ちやすい環境のようにも思えます。そこで今回は、グループディスカッションの時間を設けて「未来の海」をそれぞれに考え描くことで、「未来への希望」を持って日々の行動を位置付けられるような、きっかけづくりのプログラム構成にしました。世界有数の都市に隣接する港湾で、「自然と人の暮らしが持続可能なバランスで成り立つ未来」を考え続けてくれることを願って。

◎進行表

時間	実施事項	狙い	備品
0:00	1) アイスブレイク：インパルス （つながりを感じる） 海の生きもの"椅子取りゲーム"★ Q：食べたことがあるもの 実際に見たことがあるもの 東京湾に住んでいるもの etc.	・身近な生き物の生態（暮らし）を知る ・海の生物と自分の関わりを認識する（食） ・東京湾の生物の豊かさを知る ＊注：全部の生き物は東京湾にはいない	・LTC教材「海の生きものカード」
0:15	2) 干潟のジグソーパズル★ Q：見たことのある生き物は？ お台場の海岸と同じところは？ 違うところは？ 解説：①浅い海的重要性 植物が育つ／食べ物と隠れ家 ＊産卵場 解説：②大海へのつながり→干潟の生き物を食べる生物（食物連鎖） ＊実物大のイルカ模型 Q：海の植物は何を食べて大きくなる？ 解説：⑤海の植物の「栄養」は陸（森）から流れる ⑥水の循環 山→町→海→雲→雨→森（山） Q：水の流れて乗ってやってくる「他のもの」は？ 解説：⑥プラスチックごみの発生源	・干潟本来の自然を知る ・現在の人工海浜との違いを感じる ・食物連鎖の基盤を支える「浅い海」の重要性を知る →外洋／人間とのつながり 森と海のつながりの理解促進 ・陸の環境保全の大切さに気づく ・海の生態系の基盤を支える植物の大切さ ・海の植物を育てる「栄養」は陸からくる ・陸と海を繋ぐ「水の循環」＝永遠 ・海洋プラスチックごみの発生源が陸にあることに気づく・実感する	・LTC教材「干潟ジグソーパズル」 ・LTC教材「実物大のイルカ」模型 ・ドライヤー ・山のイラスト ・栄養●●●●● ・水の流れのイメージ（矢印） ・フリップボード（水の流れ解説） ・漂着物（プラごみの写真）
0:45	【休憩】		
0:50	3) 江戸前館紹介（東京湾の豊かさ） 寿司ネタの生物紹介 3択クイズ＊全てが東京湾にいた魚 解説：現在の東京湾に生息する生物「食べちゃったのはだれ？」 浮世絵（品川沖） ＊解説：昔はお台場は干潟。豊かな東京湾を支えていた海	・東京湾本来の自然を知る（豊かな海） ・東京湾に暮らす多様な生物の存在に気づく	●モニター ・PC・コネクター、USB ・江戸前館（当時・現在）PPT ・浮世絵「品川沖」PPT ・江戸前館になった生き物写真 三択クイズ用生物写真（8種）
1:00	4) 未来の海を考えよう ＊ブルーシープロジェクト「海の環境を守ることの大切さ」を伝える お台場学園 海の学習6年間の振り返り（先生に聞く） →「江戸前の海」を再びつくろうとしている、素晴らしい取り組み →でも海苔はあまり育たなかった。生物も減っている Q：再生できないのはなぜ？ ＊生徒からでた意見を拾い上げる 情報提供：スタッフ ＊現場の経験値を活かした話 【伝える項目】 ・温暖化に伴う海水温の上昇 例：漁師さんの声（魚種の変化、活動性の変化等） ・栄養塩の流入不足 例：林業家の声、研究者の声（高齢化、護岸問題等） ・リサイクル、大量生産＆消費→エネルギー使用量増→温暖化の一因 G：「海を守る」ためにできることを考えよう まとめ：アクション宣言「未来の海のために、私がこれからやること！」	身近な海をイメージする （自分ごととして考える） 6年間の学習（活動）の意義を知る・肯定する 環境悪化の原因を考えてみる 主体的な行動に結びつける	●ホワイトボード（2台） ●A4用紙 ●ブロッカー濃い色（太字）
1:25	6) 記念撮影（クラスごと） ＊ジグソーパズルの周りに「アクション宣言」を持って集まる		
1:30	終了の挨拶		